

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	2017/05/15
タイトル	狩込みどじょっこ会にて種蒔き体験！
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 参事 星野 恵美子

平成29年4月23日、栃木県那須塩原市四区町において、新年度の田んぼの学校が開園しました。

本会は、旧農地・水・環境保全向上対策活動と連携して実施し、地元農家の方々が指導者となり、子供たちに主に米作りを知ってもらう活動です。

当日は、春とはいえ背筋をちぢこませるような冷たい風がふいていましたが、青空のもと子どもたちは元気いっぱい。

「狩込みどじょっこ会」代表の荒崎氏から開園の挨拶を受け、小学生たちの自己紹介が始まりました。

人前に出て恥ずかしがる子ども、「よろしくお願いします！」とやる気満々の子どもと様々でしたが、これから1年間、田んぼにまつわるエトセトラを学ぶ意気込みは十分に伝わり、大人たちからあたたかい拍手をもらい、皆うれしそうでした。

参加者は、田んぼの学校を卒業し地元の中学校に通う中学生ボランティア、狩込みどじょっこ会約30名で行いました。

指導者の方から種蒔きの説明が始まり、今年初めて参加する子どもたちは話をしっかり聞き、作業は真剣そのもので没頭していました。毎年参加している子どもたちは要領よく率先して作業をしていたので、双方の力を合せてあっという間に作業が終わりました。10枚の苗箱に各々土を敷き、均します。そこへ種を蒔き、次に水をかける作業ですが、水の調整が難しいので、一人ずつ順番にホースを渡され、指導者と一緒に作業をおこないました。

その後、種籾が隠れるよう土をかぶせていきました。この作業を、もち米、コシヒカリと2回繰り返したのですが、子どもたちは飽きることなく大好きな土いじりよろしく、生き生きと作業を行っていました。

順調に作業が進んだため、今後田んぼの学校の作業の中心になる田んぼへ皆で足を運び、田んぼや田んぼ周りに作ったビオトープの観察をしました。スイスイ泳ぐメダカやカエルの出没に歓声を上げる子どもたち。時代は変わってもこのような風景は日本人として心の和むひとときです。

最後は恒例の「こじはん」の時間です。昨年田んぼの学校で収穫したお米を使い、地元農家のお母さんたちが愛情込めて握ったおにぎりと、ほどよく漬かった香の物やほうれん草のおひたしなどが用意されました。作業後は、いつもよりいっそう美味しいようで、子どもたちは口いっぱいに頬張っていました。

これから、田植えの次期になり、夏には草取り、田んぼの生き物の生息状況を観察。秋には黄金色の稲穂が実り、待望のお米が収穫できるまで、一年を通して活動は続きます。

このような農業体験を昔ながらの方法で学習しながら、その苦労を肌で感じつつ、子どもたちが自然に「食」と「農」のつながり・重要性を学んでいける良い機会になればと思いました。

水土里ネット那須野ヶ原では、今後も田んぼの学校の活動を推進していきたいと思います。



—参加者全員で—



水をかける様子